

半焼けの菓子

ホセア書7章

エフライムはもろもろの民の中に入り混じる。エフライムは火にかけて、かえさない菓子である。他国人らは彼の力を食い尽すが、彼はそれを知らない。(8、9)

神に背き続けるイスラエルの民に対する神の嘆きの言葉が続いています。彼らは偶像の神々を慕って真の神からどんと離れていったのです。

そのような民の姿が「エフライムは火にかけて、かえさない菓子である」と表現されています。「エフライム」とは北王国イスラエルのことで、「かえさない菓子」は新改訳では「生焼けのパン菓子」となっています。焼き菓子を作るとき、片面が焼けたらひっくり返して裏面を焼くものです。ところがイスラエルの民は裏返すことなく半分しか火の通っていない生焼け状態になつてると指摘されています。これは片面は宗教的で、もう片面は世俗的になつている状態を指しています。彼らの態度には表と裏があつて、真の神を信じているように見せかけながら、もう一方ではこの世の神々に心を寄せているのです。しかも、当の本人たちは自分の霊的に衰えた状態に気づいていないというのです。これはわたしたちも同じように陥りやすい姿ではないでしょうか。信仰的な側面と非常にこの世的な側面とが同居し、自分でその霊性が衰えかけていることに気づかないために平気でいるのです。

わたしたちは常に神の言葉によつて自らの本当の姿を映し出していただき、わたしたちの存在全体に聖霊の火が通るように祈り求めようではありませんか。